

世界を平和に

渡慶次小学校五年 儀間百花

私は、あるテレビを見た時、おもわず泣きたくなりました。そのテレビは、戦争についてのテレビで、戦争の頃の写真がたくさんうつし出されていました。その中の一枚、親子が草むらの中を手をつないで走つてにげている写真を見たとき、なんだか悲しい気もちになりました。なんにも関係のない人たちがまきこまれているのです。この親子はその後どうなったのでしょうか。

もし、今戦争がおこったら、子どもや関係のない人たちもみんなぎせいになるのです。私も、私の家族もみんなばらになるかもしれない。そんなことを考えると、こわくてたまりません。

私の学校では、毎年六月に平和の集会があります。このとき、みんなで平和について考えたことがあります。前は、むずかしくて意味がわからなかったけれど、こわいものなん

だなあとなんとなく感じていました。今は、本当に死んだら、どうするんだろう。ぜったいいいやと感じるようになりました。

私が前住んでいた石川は、昔多くの人がにげてきたという話をききました。多くの人がほりよになって、つかまったけれど食べ物をもらって生きのびた人もたくさんいるようです。石川ににげなかった人は、どうなったんだろうと思いました。

読谷でも、チビチリガマに多くの人がにげてきたといことを総合の時間勉強しました。テレビでもよくきく「集団自決」という言葉を知ったとき、沖縄の人は本当に集団自決をしたのかなと思いました。自分で死ぬのもこわいし、人にころされるのもいやだし、どんな気持ちで死んでいったんだろうと思いました。

今でも戦争がおきている国があります。イラクという国は十年以上戦争をしているそうです。でも、戦争に勝ったからといってど

んな意味があるのでしょう。

沖縄には、基地がまだいっぱいあります。特にカデナは飛行機がいつもとんでいます。戦争はおわったはずなのにどうして、と思います。戦争に勝ってもだれかの命がぎせいになる戦争は二度とおこしてほしくないます。